

令和6年度 授業づくりシート

教科名		自立活動	2	学年
単元名	「真似っこをして声を出そう～身体操や遊びを通して口や舌、身身体を使ってみよう～」			
単元の目標	・口形を意識して声を出すことができる。 ・唇や舌の動かし方を真似をして声や息を出すことができる。 ・身体の一部を大きく動かすことができる。 ・自分から声を出して発信したことが伝わる喜びを感じることができる。			
児童の実態	A 児	個人情報のため省略		
児童の個別目標	A 児	・教師の動きや画像を見て、自分から動作や音声を真似たり、発声したりする。 （環境の把握、人間関係の形成、コミュニケーション） ・語彙を増やし、自信をもって発語することができる。 （環境の把握、コミュニケーション）		

○活動内容と具身体的な手立て

活動内容	児童の予想される言動	具身体的な手立て
・始めのあいさつ (A 児)	・「はじめます」の号令を自分から発することが多い。日によって「はじめ」の次が不明瞭になることがある。	・全身に言葉をかけながら本児と目を合わせ、動作サインをつけながら言葉の表出を待つ。上手に挨拶できれば即時に称賛し、不明瞭の場合は「はじめます だね。」と正しく伝える。
・呼名	・「はい」で終わる場合もあれば、「はいえお」「はいうえお」など混乱した言い方になる場合もある。	・呼名前に「名前を呼ばれたら はい、だね。」と確認し、状況に応じて手本となる友達の後に呼名する。
・発声練習「あいうべ」	・意欲的に行う。	・友達の手本となるので、意欲や明瞭さを称賛する。友達や自分の音声に気付けるようにマイクを使う。
・顔の身体操 ・舌の身体操	・頬に手を当て、上に持ち上げることはするが、下に下げることが難しい様子。 ・模倣への意識が少ない。	・イラストを示しつつ、目の前で手本や添えて下に動かす動かし方を伝える。様子に応じて手を放して自分からの動きを待つ。 ・意識できるように対面で行う。少しでも模倣ができた時点で「できてるよ。」と称賛する。
・「これ何かな」 ・「誰の声かな」	・内容を覚えて自信をもって言葉にする。 ・犬が出たら自信をもって「わんわん」と答える。	・「そうだね。」「上手に言えるね。」などと本人の意欲を含め称賛する。様子を見て新しいイラストを増やす。 ・繰り返しのフレーズで鳴き声の模倣を促す。「これは何て鳴くのかな。」と個別に質問する。
・息吹きゲーム	・思うようにボールが進まないで顎でピンポン玉を押すことが多い。	・「ふーだよ。」と言葉をかけながら、様子に応じて傾斜をつけて弱い力でも進むようにしたり、顔をボールの位置から遠ざけたりする。
・終わりのあいさつ	・「おわりまっ」と発語することが多い。	・本人の意欲を認め、「終わりますだね。」と軽く伝えながら大きく訂正はしない。

○展開

時配	活動内容と教師の支援	該当児童
1 分	○初めのあいさつ ・全身体が姿勢が整ったことを確認してから号令をかける。 ・「はじめます」の部分を自分から言えるように、「気を付け、これから…」と動作サインとともに号令をかけ、続きを待つ。自分から言えたときは、「上手だね、ありがとう。」と号令後に称賛し、意欲につなげる。	
2 分	○呼名 ・一音ずつ明瞭に、口形を意識して声を出す、「はい」と続けて声を出すなどの個々の目標に応じた返事を引き出す。(A 児は「はい」の返事を促す)	
5 分	○口、顔、舌の身体操 顔・舌 ・ギガタブで映像を流しながら、画面に注目が難しい場合は個別に名前を呼んで対面で手本を示す。 A 児 ・「あいうべ」の口を一人ずつ対面で確認しながら、声に出せるように口元にマイクを向ける。音楽に合わせて楽しい雰囲気で行い、全員がすべての音を発せられるように順番で回す。	
4 分	○「これ 何かな」 ・「パン」「め」「き」「て」など一音で意味を成すイラストを提示し、発語を促す。 ・個々の実態に応じて舌の位置、唇の開閉などのポイントを手本を示しながら伝える。	
3 分	○「だれの声」 ・動物の鳴き声やイラストを見て「ブーブー」「メュー」「ワンワン」などの鳴き声を言ったり、模倣したりする。	
4 分	○息吹き遊び ・息を吹き続けたり強弱をつけたりしながらピンポン玉を転がして穴に入れる。 ・実態に応じて傾斜をつけたり、距離を延ばしたりする。 ・息でピンポン玉を吹けるように、ピンポン玉との距離を調整する。 A 児	
1 分	○終わりのあいさつ 始まりのあいさつと同様	

○児童の授業に取り組む様子

A 児	・言葉を発することに意欲的になり、自信をもって声に出すことがとても多くなった。活動の流れを覚え、次に出てくる単語を覚えて、率先して言葉にできるようになった。 ・言葉の模倣が広がったが、動作の模倣は意識が薄く、対面になって名前を呼んで注意を向けることで、少しずつ行うことがあった。 ・この時間で覚えた単語を普段の生活の場面でも言葉にすることができた。 ・飽きを考慮していろいろな活動を用意しているが、好きな活動とそうでない活動があり、好きではないと途端にやる気がなくなる。
-----	--

グループ全体の反省・課題 等
・言葉をたくさん覚える中で、「あいうえお」と返事の「はい」が混ざって、「はいうえお」となってしまう、訂正がなかなか難しくなった。今は自信をもって言葉にする、やりとりする楽しさをたくさん感じることに重きをおいているため、「はい、だね。」程度の返しにしているが、今後言い間違いが増えていきそれで覚えてしまいそうな場合の訂正の仕方が難しい。 ・発音の明瞭さをねらってもいたので、前期にも動画で様子を撮り、後期と比較できると良かった。